

横浜 SSJ ニュース

第 30 号
2021 年 3 月 1 日発行

発行：横浜 SSJ（特定非営利活動法人 横浜市精神障がい者就労支援事業会）

〒232-0022 横浜市内南区高根町 3-17-12 KS ビル 6 階

TEL 045-315-2622 FAX 045-315-2623

発行責任者：理事長 菊地 綾子

編集：横浜 SSJ ニュース編集委員会

印刷：ワークショップメンバーズ

明けない夜はない

常務理事 勝澤 昭

冬枯れの季節ですが、水仙の花が咲き、葉を落とした木々にも、新芽がふくらみはじめ、春の気配を感じる頃となりました。2月3日は立春ということですが、昨年2月には横浜市内でも第一例目の新型コロナの感染者が発生して以来、約1年を経過しました。現在は第三波の感染の広がりの中にあり、再び首都圏等に緊急事態宣言が発せられています

SSJ の各職場でも感染防止に努め、現在まで大過なくやってこられましたが、今後も決して気を緩めることなく、自分や家族・知人、職場の安全・安心を守り続けられるよう、引き続き緊張感をもって生活や仕事上の取り組みを進めていきましょう。「明けない夜はない。」とのことでしょうか。

コロナウィルスといえ、100年前の1920年にはスペイン風邪により原因も特定できず治療のための医療もままならず、世界で約4,000万人の死者がでています。

人類の歴史は、食料の確保、気候変動等による飢饉、劣悪な衛生状況や感染症・疾病との戦いの歴史であったといってもよいと思います。太古からの日本の人口の推計によれば、縄文時代の早期から弥生時代にかけては、2~60万人程度、奈良から鎌倉・室町前期頃には600万人前後、食料増産と飢饉・疫病（ハンセン氏病＝らい病、結核、天然痘、コレラなど）の中でその後も増加を続け、江戸前期から明治維新までは約3,000万人台で移し、明治期から戦中戦後をとおり、2008年には12,808万人でピークを打って人口減少に転じています。

非婚・晩婚化を主因とする少子高齢化に伴う今後予想される大きな人口減少は、国力の低下などの悪い面ばかりではないのですが、現在の社会保険、社会保障、社会福祉の諸制度を安定的に維持していくことは大変重要です。このためには、単なる見直しにとどまらず、生産性の向上、税法の適正化や生活や住まい方の在りかたなども、現代を生きる私たちの課題となっています。

さて、2月に入って、待っていましたグループホーム「SSJ 鶴ヶ峰」も3月の開所に向けて準備を進められています。就労支援を中心に事業を進めてきたSSJですが、生活支援関係事業も併せ、歩みを進めていけることを願っています。引き続き、皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

グループホームSSJ鶴ヶ峰 開所



当法人は、今まで就労支援に特化して事業を行ってきました。基本これから先も変わりませんが、NPO法人として規模が大きくなり、社会福祉法人化を目指していくことになりました。また、利用している従業員やメンバーのご両親が高齢化していく中での不安の声もあり、法人内にGHを開設しようという話が浮上したのが数年前です。

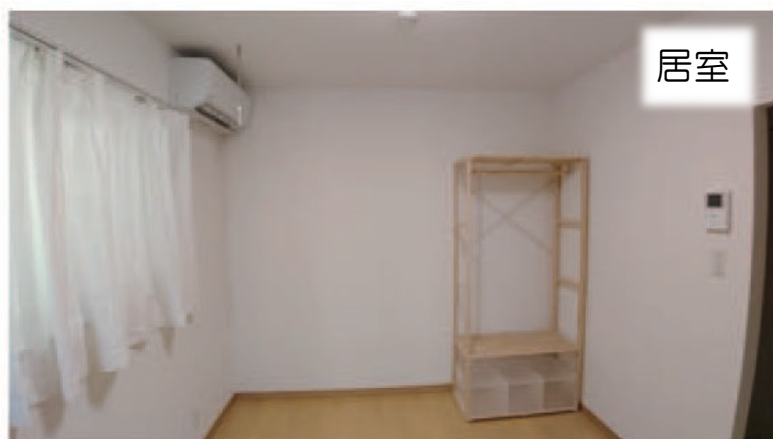
そして昨年横浜市からGHの新規設置の承認が得られました。そこで管理者として自分が辞令を受けた時は、私で大丈夫なのだろうか、全く未経験で何からどうしていいかわからない状況で、正直とまどいと不安でいっぱいでした。GHを長年携わってこられた方にアドバイザーに入っていただき、準備を進めていくうちに、ようやく具体化して何か見えてきたような気がしてきました。

GH『SSJ鶴ヶ峰』は今年の3月開所いたしました。相鉄線沿いの鶴ヶ峰の駅から徒歩10分以内にあるアパート形式です。1Fに居室が2つと共有スペースとなるリビングと事務室等があります。2Fに居室が5つあります。

居室はそれぞれに玄関があり、UBとミニキッチンがついた1Kタイプのお部屋です。

これから作りあげていく新しい生活の場です。一人暮らしする勇気は無かったけど、ここに住んでみて良かったと思ってもらえるホームになるよう、どのような場所にしたいかは入居された皆様と築き上げていきたいと思います。

(施設長 津田朱音)



居室



共有スペースキッチン



居室ユニットバス



居室キッチン



共有スペース



新人職員紹介

はじめまして、11 月より、ワークショップメンバーズに勤務させていただいております。相澤久美と申します。10 月までは、パン作りとカフェ事業が中心の B 型就労支援施設にて、非常勤職員として、6 年半勤めていました。大学時代、教育の分野を学んで小学校の先生を目指していましたが、縁があり卒業後は福祉の分野にたずさわることになりました。年月と共にやりたいことや、夢は変わっていくものだなあ…、つくづく思う今日この頃です。そして、人生の振り返り地点で、新しい経験をさせていただけることに感謝しながら日々を送っていきたいです。常勤職が 20 年ぶりで毎日ドタバタですが勉強していきますのでこれからよろしくお願い致します。

(ワークショップメンバーズ 相澤 久美)

2020 年 11 月よりすきっぷに配属させていただきました大野 景子と申します。横浜生まれの横浜育ちです。ここしばらく利用者さんの支援に関わるお仕事から離れていましたが、この度、横浜 SSJ でお仕事をさせていただくことになりとても嬉しい気持ちと感謝でいっぱいです。

私は天王町のワークショップで 2 日間の実習をさせていただいたのですが、皆さん仕事中はまじめに取り組み、休憩中や移動中は雑談するなどメリハリがあってとても良い環境だと思いました。職員の方々も和気あいあいとしており、実習 2 日間でもとても良い職場だと感じました。入社して 2 週間がたち、少しずつではありますがお一人お一人の顔と名前を覚えているところです。皆さん暖かい方ばかりで、初日からたくさん話しかけてくださり緊張もどこかへ行ってしまうほどでした。スタッフとして、利用者の方の立場になって考え、理解する姿勢を大切にお仕事したいと思います。至らない点がありますが、よろしくお願い致します。

(すきっぷ 大野 景子)

はじめまして平岡と申します。11 月下旬より、WSM で経理パートとしてお世話になっております。仕事するのは久しぶりでして、なまった頭と日々格闘しています。どうぞよろしくお願い致します。

(ワークショップメンバーズ 平岡)

昨年 11 月に入職した金子と申します。ご指導いただきながら新しいことに挑戦できることに感謝しております。又、皆さんの意欲的な姿勢にも刺激を受けています。少しでも力になれるよう努めて参りますので、よろしくお願い致します。

(北部事業所 非常勤職員 金子 美恵子)

7 月 1 日より久保山斎場に勤務することになりました小宮と申します。まだ数カ月で至らない事もあると思いますが、ひとつひとつを真剣に取り組み、早く仕事を覚え、皆さんと一緒に成長していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

(久保山斎場 パート職員 小宮 真由美)

この度 (11/16) から、戸塚斎場内売店でお世話になっております渡邊で御座居ます。

ベテラン従業員を元め、他従業員からの御指導を賜り、1 カ月半が経過し、売店業務の奥の広さを実感しております。これからも優しく気遣ってくれる従業員各位と「安全と健康で明るく気軽に話し合える」環境を更に整えて行きたいと思ひます。

(戸塚斎場売店 パート職員 渡邊 耕司)

ジョブアシスト横浜&ワークショップメンバーズ事業所紹介

「多機能型事業所の今」～コロナ禍における取り組み～

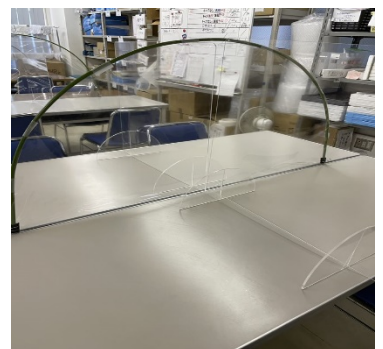
激動の一年が混乱の中、あっという間に過ぎ去ろうとしています。ジョブアシスト横浜・ワークショップメンバーズ・すきっぷの一年を振り返ってみました。

2020年4月…日本中で新型コロナウイルスが感染拡大、横浜ではクルーズ船の集団感染が起き、4月1日、国の緊急事態宣言よりも一足先に活動縮小を決断。作業活動は在宅へ、通所は所外実習と面談のみに制限。約一カ月、日に2回以上の電話連絡で体調の確認と相談支援を行いました。職員もシフト制で在宅勤務となり、事業所携帯を持ち帰って約100名の利用者の皆さんへ、声がかかるまで電話をかけ続けました。利用者も職員も作業を持ち帰り、通所再開後の作業が途切れることがないように、通常通りの納品を行いました。先が見えない不安の中、皆さんとの電話での会話が大変励みになりました。普段は話せないようなこともゆっくりと聞かせていただき、新しい発見の連続と信頼関係が深まったことを実感する大切な日々となりました。

5月…緊急事態宣言は発令中でしたが、皆さんの強い希望を受けて5月11日、作業を再開。密を避けるため午前と午後で入れ替え制、通所日数も制限させていただきました。カフェとちの木は閉鎖、作業室へ変更。4Fの食堂も作業室へ。各フロアに人数制限を設け、固定のフロアで作業に参加していただく事に。「たった2時間でも通所できることがうれしい」と9割の方が通所を再開されました。静まり返っていた作業室に活気が戻り、対面でつながれることの喜びを感じました。

6月…休業を余儀なくされていた非常勤職員が出勤再開、昼食提供と新たに内職作業を担当。少しずつ平時の活動を取り戻しつつありました。

7月…国内での感染が落ち着きつつある中、通所日数の制限をなくし、本来の希望日に通所できるように。作業時間が平時の半分になってしまったためか、コロナ前よりも通所率が上がり密が避けられない状況に頭を悩ませる日々…。手作りのパーティションやこまめな消毒作業で乗り切りました。



8月…猛烈な暑さの中、換気のために窓を開放、クーラーが利かず扇風機やサーキュレーターを購入し、コロナ感染のリスクと熱中症の危険性が隣り合わせの日々でした。そんな中でも作業の受注は通常通り、短縮された作業時間で納期を守るためにはどうしたよいか…すきっぷの利用者にもフル稼働で作業をこなしてもらいました。



10月…暑さも和らぎ秋の気配が近づく中、赤い羽根の助成金をいただき印刷作業に使用する断裁機を購入しました。これまでの手動式とは違い、デジタル設定で無理なく高品質の商品が作れるように。これまでよりも操作できる利用者さんが増え、作業選択の幅が広がっています。

11月…新規利用希望者が後を絶たず、事業所はさらに密な状態に…。アクリル板のパーテーションを購入しさらなる感染予防に努めました。すきっぷでも利用希望者が増え、密が避けられない状況の中、飛沫が飛ばないように皆さん黙々と作業に従事しています。



12月…寒さ本番、夏同様換気が必要なため寒さに耐えながらの日々…。横浜市の助成金を活用し、各フロアに空気清浄機を購入しました。これまでの間、感染された方はなくなんとか無事に2020年を終えることができました。様々な制限がある中、希望通りの作業活動・就職活動ができずストレスの多い一年だったと思いますが、ご協力いただき本当に感謝しています。来年度が少しでも明るいニュースが聞ける一年になりますように。

(多機能型事業所施設長 金子 由紀子)



すきっぷ事業所紹介



～昼食提供はじまりました～

カフェガーデンさらのスタッフを迎えて、すきっぷでも昼食提供をはじめました。2020年度4月から開始の心づもりで準備をすすめていましたが、在宅支援期間や緊急事態宣言のこともあって、6月よりスタートしました。利用者さんからは好評の声をいただいています。

・安くて、栄養のバランスがいい。・来所すれば食べられる。
・食生活が安定した。
・家では昼食を省いたり、食欲がないと食べなかったりがあるが、みんなが一緒だったり、作ってもらって食べられる。あったかいし、目に見えたうれしさがある。栄養価を気にしないですむのもいい。



・300円で安い
・外食に行かずに済み、お金が貯まった

～防災訓練を実施しました～

10月2日、中消防署消防士さんをお招きして、防災訓練を実施しました。訓練内容は、すきっぷ・食堂側より出火した想定で行いました。続けて避難後に、大通り公園にて、水消火器を使用方法を確認しました。

講評後の消防士さんからは、商業施設の管理者・お客さんの関係や、学校施設の教職員と生徒の関係と異なり、皆が自立的に動くことができることから、企業における自衛消防隊のように、もっと能動的に役割をもって防災活動に取り組めるのではないかと提言をいただいています。

参加した利用者さんからのコメントです

- ・消火器の使い方がわかるようになった
- ・プロに教えてもらえてよかった
- ・カフェガーデンさらでは、医療会館での訓練で電話通報するところまでやっていたので、もう少し濃い内容でできるとよかった。
- ・受けてみたかった（訓練時はまだ所属していなかった）

～体操を継続しています～

地域活動支援センターを運営していた時期から継続してスローエアロビクスを昼休みに行っています。体操をはじめたころは、11分間の体操でしたが、現在は1分あたりの拍数多い高負荷の3分間体操に取り組んでいます継続してやってみて、の身体の変化を参加している利用者さんに聞いてみました。

- ・よく眠れるようになった。夜更かしなくなった。
- ・柔軟性がそなわった。
- ・身体だけでなく、頭も使っているような感じでとても良い！
- ・自分一人では、やる機会がない為、このまま継続して欲しい。

（すきっぷ 小澤千尋）

北部事業所紹介

「僕が入社して思ったこと」

2015年の11月に入社して、新人は10人ぐらいいましたが、いろいろあって今は同期の人はたった1人になってしまいました。北部事業所の前は援助付き雇用でしたが、今現在の北部事業所の当事者スタッフになって2020年10月半ばで3年目になりました。僕を新人の時から仕事のやり方を教えてくれた、すべての先輩たちと正職員と当事者スタッフに、このコロナ禍の時代でも、支えてくれる関係者の人々に「今まで支えてくれてありがとう。」そして一緒に仕事を協力し合えば、諦めそうな時や、辛い事が起きたときも施設長さんや、事務所の振り返りでお世話になっている正職員さんや、同時時間帯に事務所に会った従業員さんには「僕にアドバイスをしてくれてありがとう。」と言いたい気持ちでいっぱいです。今まで北部事業所で働いたことない人や、一部のメンバーさんから、北部は「きつい」と聞かされていましたが、仕事や役割分担をその日の一緒に組むペア達と、その日に体調の事や、仕事始めにどのポジションをやるか決めてローテーションを回しながら業務をして、誰とでも報連相をしながら業務をすれば仕事が出来ていくような気分になれるし、業務に慣れてしまえば、今度はその日に自分もみんなも関わってきてくれた人達に「今日はありがとうございました。」と一言いうだけで、北部は「きつい」というより達成感が出てきて、最後に今日ガンバレたのは、皆の力で乗り越えたんだよ！「ありがとう」きついなんて言わなくてよかった。とホッとしてしまうんです。北部の1日はA、B、C、Dと分かれています、皆でペアを組みお互いに支え合いながら、「自分達が気持ちを切り替えて、助け合い協力し合って、報連相することでその一日が乗り越えられる。」最近つくづくそう思えるようになりました。「本当に本当に北部の皆さんがアットホームな雰囲気です。ありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。」新人さんが北部に来ると、施設長を始めとする正職員さんから「竹さんは新人さんに厳しいんだよね」と言われますが、僕は厳しく教えているのではなく、言いまわし方がストレートなだけなんです。新人さんには頑張ってもらいたいから、つつきんどんな言い方になっているだけなんです。新人さんとメンバーさんと僕の関係者の皆様、この場を借りて「ごめんなさい」と謝りたいです。SSJニュースの編集をしてくれるすべての皆様にも感謝の気持ちを言わせてください。「いつも編集などしてくれる皆様にありがとうございます。」北部には今までになく長くいます。なぜなら北部の仕事は皆で協力し合い助け合いながら1日の業務が終わるので、僕みたいにすぐに「今日は1人で頑張るのは無理だな」と考えてしまうけど、北部の1人1人が皆で皆を支える体制が好きで長続きしています。「関係者の皆様本当にありがとうございます。」

最後になりますが、北部事業所に新人さんや新人正職員がきたりするさらなる今後になることを祈っています。僕はもともとお世話好きなので、今後は言葉遣いを気を付けながら仕事を教えたりしてみたいです。もちろん現状のメンバーさんが体調悪いけど仕事や業務をあきらめずやっていいたら、出来る限り優しく仕事を教えたいです。改めて、今まで関わってきてくれた人達や、これから北部でやり始める人に、「ありがとう」を伝えたいです。

(北部事業所当事者スタッフ 竹 伸夫)

久保山・戸塚事業所からのお知らせ



この度、法人内での異動がありました職員からのご挨拶を紹介します。

私が久保山事業所に配属されたのは、約7年前です。素人の私に現場の従業員や職員の皆様が斎場業務を教えてくれたおかげで何とか今まで続けて来られました。その間、久保山20周年を迎え、援助付雇用から法内事業への移行等、様々な出来事がありました。それを無事に乗り越えられたのも、皆様が支えてくれたからだと思います。本当にお世話になり、ありがとうございました。異動先でも経験の積み重ねと思い頑張ります。

グループホーム SSJ 鶴ヶ峰 施設長 津田 朱音

2017年4月、A型事業所として、久保山・戸塚事業所が始まりました。今年4月には、5年目を迎えます。これまで、従業員さん、パートさん、職員さん、皆さまのお力のおかげで充実した時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。また、お世話になりました。久保山・戸塚事業所は、就労の場所です。従業員の皆さまが、これからも、お元気で働き続ける事が出来るよう願います。

2月からは、新しく立ち上げるGH（グループホーム）へ異動になりました。入所される利用者さんが、楽しく過ごせる生活の場となるよう力を尽くしていきたいと思います。

グループホーム SSJ 鶴ヶ峰 サービス管理責任者 大川 早苗

ワークショップメンバーズから2020年10月に久保山・戸塚事業所へ異動して参りました、野尻と申します。従業員の皆様が働きやすい環境作りや、やりがいを持って仕事に取り組めるよう力になればと思います。ワークのメンバーさんとの出会いが宝物だったように、久保山・戸塚の皆様とも良い関係を築きたいと思っています。気軽に声を掛けて頂ければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

久保山・戸塚事業所 施設長 野尻 哲哉

この度ジョブアシスト横浜・ワークショップメンバーズ（略してJW）から異動して参りました。JWでの3年半、初めての就労支援の現場で、メンバーさんの声を聴きながら一緒に考えることの全てが学びでした。今でも一人ひとりの出逢いに感謝しております。

久保山・戸塚事業所では、「誇りとやりがいを持って活躍し続けられる職場づくり」を職員・従業員がワンチームとなり、創意工夫で実現できるよう尽力いたします。その為にも、ここで働くことの魅力をお伝えできるようになりたいと思います。どうぞお力添えを賜りますようよろしくお願いいたします。

久保山・戸塚事業所 サービス管理責任者 内田 智子

メンバー・従業員の「声・こえ・コエ」

今回のテーマは「コロナが落ち着いたらやりたいこと」と「私の今年の漢字」の2つです。毎回テーマだけをお伝えして、ご自身でイメージを膨らませてもらってます。激動の年となった1年をそれぞれの視点で振り返り、書いていただきました。原稿を書いていただいた皆様、ありがとうございました。

～コロナが落ち着いたらやりたいこと～

今年始まってからまさかこんな映画みたいな事が起こるなんて思いもしませんでした。自分は病的賭博という診断を受けていて代わりになる自分にあった行動をみつけないといけないということで御朱印巡りをやっていたのですが、緊急事態宣言が発令されて出来なくなりました。また体力をつけるためにスポーツセンターに通っていたのですが行けなくなりました。なので、家で過ごす事が多くなり、今はTVを見たり音楽を聞いたり本を読んだりして過ごしています。それはそれでリラックスできて良いのですが、だらけてしまいそうです。今まで出来ていた事が出来なくなる事、その事を痛感しています。今年出来なかった分、出来た時の喜びはすごいという思いを胸に前に進んでいきたいです。

(久保山・戸塚事業所 従業員 上川 英俊)

- ・図書館でゆっくり本を読みたい
今だとゆっくり本が読めない(Hさん)
- ・心から楽しむ散歩をしたい
(心配しながらとか、マスクをしたままではない) (修さん)
- ・マンガ喫茶に行って鬼滅の刃を全巻を読みたい(T.Sさん)
- ・コンサートに行きたい(O.B 米田 達哉)
- ・きちんと化粧をして出かける【マスクをしてしまうので】
- ・みんなで出かける。山下公園とか、ガンダム(S.Oさん T.Sさん)
- ・初詣に行きたい(賛同者多数、行けたらいいですね)



(すきっぷ 利用者の声)

今年の漢字一文字

「協」

(匿名希望)



私がコロナが落ち着いたらずやりたいことは、就職活動です。就職自体が厳しく、入れても解雇される可能性があるという現実、2020 年中の就活は難しかったので、足止めされている感覚が強くてやきもきした一年でした。このワークショップメンバーズに入って結構な時間が経ちましたが、入った当初とは別の就職したいという明確な目標ができたので、なんとかそれを実現させたいと思っています。そこで、いろいろな作業をやってみて就職に向けた自分の適性を知ること引き続きしていきたいです。

次にやりたいことは、ワークショップメンバーズの作業の一環でもあるカフェ「とちの木」の作業に関わることです。現在とちの木はコロナの影響で営業を停止しています。私の就職の希望業種の候補として、接客や飲食に携わるものというのがあります。そこで、コロナ前は積極的にとちの木に参加していたのですが、現在はその仕事がなくとても寂しく思っています。早くコロナが落ち着いて営業が再開されればまた積極的に参加したいと思っています。

(ワークショップメンバーズ ジーコジャパンの嫁)

自分で新幹線に乗って日本の城を見物してみたい。アメリカに旅行に行きたい。何よりも 2 駅しか離れていない老人ホームに住んでいる母に何も気にせず会いたいです。母にあって食事をするなり話し合いをしたいです。今回初めて元日に母に合わず 1 人で正月を迎えることになりました。日本全国で僕だけではないと思います。僕は亡き父同様に城を見て回るのが好きです。新幹線に乗って駅弁を食べながら景色を見て城周辺のホテルに 1 泊して楽しみたいです。これはあくまでも僕の趣味です。それからアメリカに旅行に行きたいです。僕が病気になる前に一度自分で飛行機のチケットを買って日本から国際電話でアメリカのホテルを英語で予約して 1 週間楽しみました。この 3 つはしたいです。

(北部事業所 氣賀 尚人)

～今年の漢字～

今年の漢字 自分にとっての漢字一文字

今年の自分にとっての漢字一文字は『変』だと思います。

自分が変わっているという事もありますが(笑)

そういう意味ではなく変化の『変』です。

暮らし方(生活スタイル)だったり、余暇の過ごし方だったり
仕事場が変わりました。なので慣れない部分はありますが
その事が良いことなのか分からないですが日々の変化を
楽しみながら生きていきたいです。



(久保山・戸塚事業所 従業員 上川 英俊)

「新」新しい場所で頑張りたいです。

(北部事業所 大塚 愛実)

「痛」…いろいろな意味 コロナの事。個人的に(T.Sさん)

「定」…こころの面で落ちついた感がある。(すきっぷがB型の事業所になったことに慣れた)(S.Hさん)

「立」…自分の一人立ち、子供の自立、飛び立った(Hさん)

「体」…体力がついたこと。きたえられたこと。籠っている間に、体力作り、体調が整えられた部分があった(S.Oさん)

「慎」・「耐」…今年の場合は、みんな思っているのでは。(T.Sさん)

(すきっぷ 利用者の声)

今年の漢字:救

暗い孤独が今を壊す 誰も救えないなら 自分も救えない 波枯れるまで 悲しみを知ったならば
その乾いた大地に雨は降らないのだろう 見えないものに 心縛られ動きがとれないでいる
何も言えないなら マスクを外してくれ それだけで意味は変わるのかい ああ美しい日々よ 風を呼び鳥
が飛んで

眠れぬ朝へ今日という美しい日々よ 夢はさめても まだ夢じゃない 美しきメロディーは心を溶かしていく
まるでコーヒーに甘い砂糖が溶けるよう たとえ救われなくとも 救う人の希望の光を 救いの手を
差し伸べているのかどうか わからない 世の中なのかもしれない

(ワークショップメンバーズ アクトン武)

私の今年の漢字

「家」今年は家で食事や仕事する時間が多かったから。

(ワークショップメンバーズ 加藤)

今年の漢字

私の今年の漢字は「末」です。何故かと言いますと、今年初詣に行って、おみくじを引いたら末吉だったのです。末吉の末です。なんか微妙だなと思ひまして、普通、例年だと小吉とか中吉なので、末吉ってなんかあるのかなと何かひっかかるものがありました。そしたらコロナが起きました。そのとき、末吉とはこのことだったのではと思いました。でもここまでだと普通なのですが、コロナの自粛期間でデイケアを休んでいるときに、デイケアをやめて作業所に移ろうと思い立ちました。デイケアには長いこといて、正直行き詰まりを感じていました。デイケアだとメンバーの人とはライバルみたいな感じになってしまい、足の引っ張り合いになってしまいます。こちらは望んでいないのに。メンバーの人と共生ができないのです。だから、デイケアは限界だなと前から思っていました。作業所だとメンバーの人とは、同僚、同志という感じになって、お互い敬意を持てるのでこっちの方がいいなと思っています。なので今年一年の転機を象徴したものなので「末」だと思ひました。

(ワークショップメンバーズ M. M)



今年の漢字「変」

通所先と仕事が変わった。長年通った地活作業所からステップアップの目的で、ワークショップメンバーズに移り変わったこと。容姿の変化。テレビでトランスジェンダーの話を聞いて髪型や色・服装のジェンダーレスな生活が面白いと思って、ピンク色とかキャラ柄プリントTシャツを着るようになった。髪が長いのはずっと前からだけど自分では気に入っているんだよ——ん。

コロナが落ち着いたらやりたいこと。聖地秋葉原へ行きたい。趣味がラジオ&オーディオ製作好きなのでカラフルなパーツやケーブル、高級アンプや無線機などにワクワクする。また1台作ってみたい。

(ワークショップメンバーズ 宮田)

今年を振り返り、明日を想う

「(今年も、もうすぐ終わる)」そんな考えが頭の中をぐるりと一周した。今年是一年経つのがあまりにも早く感じた年だった。【新型コロナ感染症】、恐らくこれが一年を早く感じた原因だろう。今年を振り返り、漢字で表現するとしたらどんな文字が自分の中で納得するだろう?『憂』私はこの文字に尽きると思う。何故か、疑問に思う人もいだろう。だが逆に私は聞きたい。むしろこの文字以外にあり得るのか?と。誰もが不安を抱き、焦り、恐怖を感じ、絶望を味わった。中には自分より弱い立場の人間を蔑む卑怯者まで出てくる始末。これ以上ないほど人は己の限界と無力さを感じたことはないだろう。故に私は今の現状を『憂』いているしかし、足元ばかり向いていてもなにも面白くない。そこで、私はコロナが過ぎたらソロキャンプに挑戦したいと思っている。夏の蒸し暑いキャンプはもう勘弁なので、冬の寒い時期に行きたい。

今年ももうすぐ終わる。来年はもっと自分を高めることができますように——。

(ジョブアシスト横浜 お豆野郎)

<<会費・寄付者納入報告>>

2020年4月から2021年3月までの会費の状況です。

・個人会員 45名 ・法人会員 23団体 ・賛助会員 5名

いつもありがとうございます。精神保健福祉の向上の為、大切にに使わせていただきます。

カフェガーデンさらをご利用いただいていたお客様からご寄付を頂きました。

心より感謝申し上げますとともに、寄付金として法人運営に活用させていただきます。



編集後記

寒い冬もようやく終わりを迎え、暖かい春がやってきます。もうすぐお花見シーズン。去年は出来なかったのが、今年は実現出来るといいな。まずは広報委員のみなさんでお疲れ様会出来るといいな。

広報委員一同